

共通テスト・問題の特徴

■英語リーディング 問題の特徴

センター試験などを含めた他のテストと比較すると、次の5点が大きな特徴です。

- ▶ 1 読解力重視
- ▶ 2 複線型読解の多用
- ▶ 3 推理推論重視
- ▶ 4 非パターン化
- ▶ 5 アクティブ化

reading



▶ 1 読解力重視

英語の語句知識や文法知識以上に読解力を重視します。わかりやすい事実は、センター試験では最初にある「発音・文法問題」が無くなり、全て読解問題となったことです。

共通テストは、文章内容も語彙レベルもセンター試験に比べて平易なものです。その代わりと言ってよいか微妙ですが、読解力に大きな負荷がかかるように設計されています。

端的に言う「大量の情報をすみずみまで気を抜かずにちゃんと読め」というメッセージがこめられています。

全体の通読や要約を求めるような問題が多く見られます。局所的な記述内容より、文章の流れをつかむことが重視されています。また、語数が多いので、速度も重要です。時間との闘いはかなり厳しいものです。

また、英文以外の多種多様な資料の読み取りが重要な意味を持っています。「読解力」といってもそれは、単に英文を訳す力を意味するのではなく、データや地図など、様々な情報を含めた「情報を読み取ってその意味を正しく解釈する力」と理解すべきものなのです。

▶ 2 複線型読解の多用

耳慣れない言葉でしょう。「複線型読解」とは、本書独自のネーミングです。読解力重視の中身はというと、多くの設問が「複線型」になっていることです。これまでの英文読解はほぼ「単線型」でした。そもそも単線・複線とは、鉄道用語です。線路が1本だけの路線を単線、2本のを複線と呼びます。

単線型読解は、一つの文章をはじめから終わりまで一直線に読みます。

複線型読解では複数の文章や資料（イラストや図表、地図などの文章以外の非連続型テキストもしばしば加わります）を並行して読むことが求められます。だから複線型です。

文字数が同じでも、単線型に比べ、視線や意識を移動させる必要があるため、時間がかかったり何度も読み返さないと混乱したりします。共通テストで用いられる英文は内容、語彙ともに比較的平易なのですが、複線化によって難易度が上がっています。

グラフは、「複線型読解」を求める問題の割合を、センター試験と共通テストで比較したものです（設問数の割合で集計）。一番下は、公開された2025年度用の新しい試作問題の比率です。

不慣れた受験生が多いためか、差がつくポイントになっています。

